

## 「道の駅まくらがの里こが」 公演報告(第83回)

2018.11.19

茨城県最大級の「道の駅 まくらがの里こが」は2013年7月7日に新4号バイパス沿いにオープンした。

『まくらがの里こが』という名称は、茨城県古河市が一般募集を行い、決定したそう。 “まくらが”とは、万葉集に「まくらがのこがのわたりのからかじのおとたかしもなねなへこゆゑに」と歌われていて、古くから古河周辺を指す言葉として使われてきた。



### 道の駅 まくらがの里こが演芸会

本日 大屋根広場にて

11:00～ 13:00～ 2回公演

#### 演目

**裡小路こじまる** 漫談 綾小路きみまろばりの明るく楽しい漫談。

**春秋亭ひや水** 落語・道灌 雨具を借りきた友人に古歌でスマートに断る？

**熊谷座** 南京玉すだれ どんなものでもそのように見えるから不思議。

**三洋亭大笑** 漫談 こちらはしっかりとした漫談 聞き比べが面白い。

**迷々亭不落** 落語・金明竹 さまざまな断り方も使う相手をまちがえると。

演目の変更がある場合がございます。ご了承ください。

古河演芸愛好会

2018.11.17(土)

施設は、開放的であり、木のぬくもりを感じる安らぎの場所である。地元古河の新鮮野菜、果物をはじめ、茨城県内のお土産も豊富に置いてあった。カフェ・ベーカリー「はなもも」では、地元の食材を用いて店内の釜で焼き上げたパンが人気である。

「古河演芸愛好会」の招待で、11月17日(土) 11時30分と13時50分から約30分の2回公演を行った。「愛好会」からの出演依頼はこれで3度目である。

10時30分頃到着したのだが、広い駐車場が満車で車を駐めるのに一苦労であった。また、駐車場までは一方通行の流れになっているが、分かりづらく戸惑いを感じた。秋晴れの晴天で沢山の利用客で施設は大盛況であった。

演芸会は漫談、落語、南京玉すだれ、漫談、落語と組まれていた。私たちの他はみなさん古河の人たちである。







会場は屋外で屋根はあるが、ステージはなく、スチール椅子を50脚ほど並べた客席の前での演技である。落語だけはテーブルを並べその上に高座が作られていた。

固定マイクだけなので、今回はKさんが用意したピンマイクを使用することとなった。

挨拶に続き、「南京玉すだれ基本」からスタート。「玉すだれ」の滑りも良く順調で、心配したピンマイクも音の通りも良く、いい調子です。会場のお客さんからも手拍子・掛け声に元気を頂き、華麗に「しだれ柳」で決め、拍手喝采でした。

「自己紹介」は時間の都合で私からの紹介となりましたが、遠い所からの来場に驚いていました。

次の出し物のご当地出身『水戸黄門』の「あゝ人生に涙あり」。これも最後の「印籠」に大喜びでした。時間がないので演技はどんどん進みます。



「キヨシのズンドコ節」は、また、手拍子を貰いましたが「キヨシコール」が少なかったかな。演技はテンポ良く、楽しく終了しました。



最後の演目は「麦畑」  
です。

男女ペアによる演技に  
皆さん“興味津々”で見て  
います。



私はこの時に「南京玉すだれ」をやっていて良かったといつも感じます。人に喜んでもらう、驚いてもらえる、チョットだけでも「スゴイ」と感じて貰う、最高の幸せです。

フィナーレの『ハート』マークに今日も大きな拍手を頂きました。



午後の公演待ち、少々お疲れモードかな？  
この時、Iさんは観客席の一隅にて暖かい陽  
射しに、心地よくお休み中！？

初めての2回公演が経験できました。やはり、  
ちょっと疲れたかな。それに私以外の座員の  
皆さんには古河は遠かった。ご苦労様でした。

高木民男 記

中山陽子 写真